

サ  
カ  
ス  
ク  
ス

京都大学瀬戸臨海実験所振興會  
水族館月報

NO. 125

1963. 1月 (2月10日)

録 事

1月1日 午前10時より実験所事務室において年賀会を催す。

1月2日 1月1日より交通公社周遊券 観光券 は、明光バス引換による水族館・植物園共通入場券として扱われることとなり、本日より入場者を入れることとなる。

1月22日 消火器の詰替えを行なう。

1月24日 本日付にて山路委員のナポリ滞在期間は2月22日まで延期された。  
以後6～7月まで延期される見込。

業 務 概 況

◎ 1月の入場者数

区 分	大 人	中 人	小 人	
水族館発売	9445	255	1228	10928
団体	7192	—	—	7192
交通公社発売	3357	—	—	3357
近畿日本ツリス発売	663	—	—	663
日本旅行会発売	666	—	—	666
日通観光発売	19	—	—	19
明光バス発売	31929	—	914	32843
合 計	53271	255	2142	55668
累 計	576728	2083	17593	596404
無 料	旅行幹旋業者世		42	1074
団 体	一般	143組, 学生	1組	合計 144組

◎ 1月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	948,530	16,263,578
窓 口 売 上	496,280	7,299,713
交通公社クーポン	88,856	1,850,046
近畿日本ツリストクーポン	17,471	1,508,430
日本旅行会クーポン	16,023	480,950
日通観光クーポン	570	6,021
明光バス観光券	329,330	6,908,860
予金・積立金利息	—	78,988
手 数 料	14,555	488,325
絵はがき拵 下	10,450	527,500
パンフレット拵 下	—	58,950
南極生物報告拵 下	—	2,230
魚 類 拵 下	400	20,900
雑 収 入	1,039	30,865
諸施設改善積立金より繰入	—	4,551,567
災害時資金より繰入	—	168,760
合 計	974,974	22,191,663

明光バス観光券未収分 大人券 @30 24680枚, @27 8541枚  
 小人券 @10 996枚, @9 15枚

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	260,453	3,118,789	感 覚 器 履 行 費 他
会議費	5,100	108,549	
備品費	—	780,040	
消耗費	71,561	1,160,427	
事業費	8,910	1,053,755	
維持費	7,585	710,825	
其他諸聖費	130,967	1,465,106	理 学 部 事 務 室 へ 年 末 協 力 金 当 他
積立金	270,029	3,018,664	
予備費	—	—	
合 計	754,605	11,416,155	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	—	122,630	
奨学金	100,000	123,480	
備品費	—	38,150	
消耗費	—	—	
刊行費	—	351,900	
役務費	—	867,544	
合 計	—	1,503,704	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	—	33,120	
備品費	—	—	
消耗費	—	—	
役務費	—	—	
合 計	—	33,120	

貯 蓄 費

備 考	要 額	金 額	累 計
合 計	—	—	472,598.7

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	754,605	11,416,155
実験所経費	100,000	1,503,704
伝物館経費	—	33,120
貯 蓄 費	—	472,598.7
合 計	764,605	17,678,966

(100)

◎ 1月末現在高

前月よりの繰越	4,302,328
今月の収入合計	974,974
今月の支出合計	764,605
<u>現 在 高</u>	<u>4,512,697</u>

◎ 前年度との比較

	1962	1963	増 減
入 場 者 数	50238	55668	+ 5430

## 水族館記事

- ◎ 16日 G水槽ガラス面の洩水止め再工事のため放水。タカアシガニ1個体をF水槽へ移した。G水槽内式フィルターの砂止めネットと濾砂はクーラーの錆と水アカで著るしく汚れていたため、何れも新しくする事にした。
- ◎ 29日 御坊市名田漁業組合より、ハコエビ1個体が列車輸送で入槽した。
- ◎ 30日 屋外プールのアカウミガメ1頭が寒さのため死亡。
- ◎ 中旬より寒波が続いたため、今月の最低水温は9.8℃を記録した。このため例年開放式水槽で、保温せずに越冬した水族(別記)が相次いで死亡し、一方その補充もできなかつたので、水槽の内容はかなり低下した。また、生存中のものも行動が緩慢となり、生彩を欠いている。今後このような寒さが毎年続くとすれば、全水槽に循環式給排水と保温装置の設置が望まれる。

寒波のため今月中に死亡した主な水族名:

無脊椎動物：ユビノウトサカ ヒダヘリサンゴ オトヒメエビ ヤドカリ類 アサヒガニ  
シマイシガニ ヤッシロガイ ハナウミシダ アカクモヒトデ シラビゲウニ  
ラッパウニ ガンガゼ アカウニナマコ トラフナマコ

魚類：ゴンズイ ゴイシウミヘビ ワカウッポ タケウッポ アカツマカサ イトウドアイ  
ギンガメアジ オキナヒメジ ギンユゴイ キハツリク アカハタ クロサギ  
イトフエフキ コトヒキ シマスズメダイ オヤビッチヤ アオブダイ カンランハギ  
キタマクラ コバンサメ

なお、先月より単独循環として、保温(17~22℃)中の、次の熱帯性魚類は、順調に飼育中で、無事に越冬できる見込みである。

クダタツ クマノミ モンククマノミ コバルトスズメ ミスジリュウキユウスズメ  
コガシラベラ カムリベラ ニジベラ クロホシベラ ホソリメワケベラ ムナテンベラ  
ハクセンベラ カゴカキダイ チョウチヨウウオ タスキモンガラ キリンミノ ハナミノカサゴ

- ◎ I水槽は、これまでに4回も防水工事をくりかえしたが、いぜん方立の部分からの洩水が止らず、また、1.8トンの小型水槽では、中央の方立が観覧上、目障りなので、この際これを取り去り、水槽の向口は少し狭くなるが、1枚ガラスにすることとした。ガラスは120×150cmのものを新たに購入し、その入れ替えは、大林組が無償で施してくれていることになっている。

- ◎ 1月の採集作業は、天候に恵まれず、27日に行ったタイドプール採集1回だけに止まった。
- ◎ 購入水族も同じ理由で、前記ハコエビのほかは皆無であった。
- ◎ 1月31日現在、飼育中の動物は、総計288種 3,530 個体以上で、その内訳は次の通り、このうち観覧水槽に収容展示中の動物は、285種 3410個体以上

ヒドロ虫類	2種	フシホカマテ類	3種	ヒトデ類	7種
ウミトサカ類	5種	エビ類	16種	クモヒトデ類	2種
ヤギ類	5種	ヤドカリ類	5種	ウニ類	11種
ウミエラ類	1種	アメフラシ類	5種	ナマコ類	5種
イリギンヤク類	9種	カニ類	19種	ホヤ類	5種
イシサンゴ類	11種	二枚貝類	9種	軟骨魚類	13種
ハギンヤク類	1種	巻貝類	23種	硬骨魚類	117種
ホウキムシ類	1種	ヒガラガイ類	1種	カメ類	3種
多毛類	3種	タコ類	1種		
カブトガニ類	1種	ウミシダ類	4種		

## 資 料

- ◎ 1月の気象 (09時観測)

第1水槽室 (水温・比重は No.24 水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：24	7	9	8
室 温 (°C)	$\frac{8.7 \sim 12.2}{10.4}$	$\frac{6.5 \sim 12.8}{8.2}$	$\frac{5.2 \sim 9.0}{6.8}$
水 温 (°C)	$\frac{12.00 \sim 15.00}{13.24}$	$\frac{11.20 \sim 13.06}{11.90}$	$\frac{9.80 \sim 12.20}{10.48}$
比 重 (°15)	$\frac{25.35 \sim 26.69}{25.67}$	$\frac{25.11 \sim 25.65}{25.43}$	$\frac{25.11 \sim 25.54}{25.29}$

新 縮 (水 温)

H 水槽 (°C)	$\frac{12.5 \sim 15.3}{13.6}$	$\frac{11.5 \sim 13.2}{12.3}$	$\frac{9.8 \sim 11.8}{10.5}$
T8 水槽 (°C)	$\frac{12.6 \sim 15.5}{13.7}$	$\frac{11.2 \sim 13.8}{13.2}$	$\frac{9.9 \sim 12.4}{10.7}$

取 入 口

水 温 (°C)	$\frac{12.20 \sim 15.24}{13.30}$	$\frac{10.24 \sim 13.40}{11.89}$	$\frac{9.82 \sim 11.84}{10.53}$
比 重 ( $\alpha_{15}$ )	$\frac{25.25 \sim 25.58}{25.46}$	$\frac{25.23 \sim 25.87}{25.50}$	$\frac{25.08 \sim 25.51}{25.30}$

## 博 物 館 記 事

◎ 寒波のために打上げられた魚類で、数種かなり珍しいものが手に入り、博物館の標本に加えた。種名、入手日、採集場所等は次の通り。

- ウミヘビの一種 Xyrias sp? (160cm) 1個体  
20日 藤島海岸、 堅田 井筒寿男氏より受贈
- モヨワツツヘビ Brachysomophis cirrhochrylus (Bleeker)  
(150cm) 1個体  
27日、湯崎海岸、 湯崎 川口太七氏より受贈
- ハナハゼ Vireosa hanae Jordan et Snyder (7~11cm) 5個体
- コスダイシエナ Apogon schlegelii Bleeker (6~9cm) 5個体  
27日 塔島附近 荒瀬採集
- イトヒキバラ Cirrhilabrus temminchi Bleeker (6.5cm) 1個体  
28日 江津良海岸 稲垣採集
- バケシヤナブリ Ijimaia fowleri Howell Rivero (141cm) 1個体  
28日 網不知湾内 網不知 井本清次郎氏より受贈

## 来 訪 録

1月8日 オリース出版社(児童図書ぎんのすず発行) 松井喜一会長、川本道人企画部長、カメラマン1名、エビ・カニ・カイ類の撮影のため来館。

1月28日 小田急電鉄株式会社事業部事業課中村保氏、永井悟氏視察のため来館。

昭和38年2月10日 (NO.125)

編集兼  
発行者

宮 地 伝 三 郎

発行所

瀬戸臨海実験所  
和可山泉 白浜町  
瀬戸臨海実験所内  
(Tel. 白浜温泉 515)